

平成17年1月25日

平成17年3月期第3四半期業績状況（非連結）

上場会社名 株式会社DNAチップ研究所
(コード番号 2397 東証マザーズ)
(URL <http://www.dna-chip.co.jp/>)
本店所在地 神奈川県横浜市鶴見区末広町一丁目1番地43
代表者 代表者役職氏名 代表取締役 松原 謙一
問合せ先 責任者役職氏名 常務取締役 柴 勉
TEL 045-500-5211(代表)

1. 業績

(1) 平成17年3月期第3四半期の業績（平成16年4月1日～平成16年12月31日）

	平成16年3月期 第3四半期 (前年同期)	平成17年3月期 第3四半期 (当四半期)	対前年 同期比	前期(通期)
	百万円	百万円	%	百万円
売上高	943	698	74.1	1,807
営業利益	63	35	55.7	130
経常利益	56	35	64.0	103
第3四半期純利益 又は当期純利益	31	20	64.6	63
総資産	1,079	1,583	146.6	2,469
株主資本	636	1,324	208.0	1,304

(2) 事業別売上高

	平成16年3月期 第3四半期		平成17年3月期 第3四半期		対前年 同期比	前期(通期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
研究受託事業	434	46.0	314	45.0	72.5	663	36.7
商品販売事業	509	54.0	384	55.0	75.4	1,144	63.3
合計	943	100.0	698	100.0	74.1	1,807	100.0

(注)1 当第3四半期財務諸表については、株式会社東京証券取引所の「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則の取扱い」の別添に定められている「四半期財務諸表に対する意見表明に係る基準」に基づき、新日本監査法人の審査を受けております。

<当社業績の特性について>

当社の業績は、商品等の納入及び検収が年度末に集中する傾向にあり、売上・利益とも第4四半期に集中する特性があります。

2. 業績の概況（平成16年4月1日～平成16年12月31日）

（1）当第3四半期の業績概況

当第3四半期におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境に厳しさが残るものの、米国や中国経済を始めとした好調な海外景気を背景とした輸出の拡大等により企業業績の回復傾向が継続する中、民間設備投資や個人消費にも明るい兆しが見え始めていることから、景気は着実に回復を続けております。先行きにつきましては、景気回復を牽引してきた家電にデジタル家電を軸にした年末商戦が一段落して需要に一服感が出ると見られ、また、原材料不足の深刻化や円高の進行で輸出産業を中心に減速感が広がる可能性もあり、景気の本格的回復につきましては依然として慎重な見方も存在しております。

一方、ライフサイエンス分野は、医療費抑制策の強化や受診個人負担の増加等により、国内市場拡大が抑制される傾向が続いておりますが、研究開発競争は熾烈化しており、国内の大手製薬企業においても、企業合併等を積極的に図るなどの動きが活発化しております。また、社会の急速な高齢化や死因の上位を占めるガンや生活習慣病に対する予防医療の必要性が高まってきております。

この様な状況下において、当社は、今期から事業構造の転換に取組み、一般機器・システム販売等の低収益事業から、受託解析サービスや汎用チップ販売といった高収益事業への事業転換を積極的に図って参りました。

汎用チップ関連については、オリゴヌクレオチド・チップの新規開発及び改良に注力し、平成16年6月にヒト及びマウスのほぼ全遺伝子3万個を1枚のチップに搭載した「30K on one Chip」の販売を開始しました。また、平成16年9月にはラット肝臓、腎臓、生殖器等のcDNAクローン約8,400遺伝子を搭載した「HyperGene Rat cDNA Chip」の販売を開始しました。さらに、(株)バイオマトリックス研究所や三井物産(株)及び(株)ノバスジーンと受託解析サービスを含めた業務提携を結び、受託解析サービス事業の拡大に努めました。

公立機関の研究受託公募につきましては、新技術を活用した研究開発を積極的に提案し、経済産業省関東経済産業局からは平成16年4月に「地域新規産業創造技術開発費補助金」の交付認定を受けました。また、平成16年10月には社団法人バイオ産業情報化コンソシアムと「機能性RNAの産業応用に向けての基盤研究のための調査研究」に関し研究開発事業協力基本契約を締結いたしました。

事業区分別の営業状況は、次のとおりであります。

【研究受託事業】

「AceGene 30K on one Chip」等汎用チップの販売増に伴い大学、研究機関及び製薬会社等からの受託解析サービスの売上が増加しました。一方、日立ソフトからの研究受託につきましては、「AceGene 30K on one Chip」の開発完了により、本年度は次の本格的共同研究開始までの端境期となり、研究受託売上が対前年同期比55.2%と減少しました。

その結果、当事業の売上高は、314百万円（前年同期比72.5%）となりました。

【商品販売事業】

汎用チップについては、「Human Oligo Chip 30K」及び「Mouse Oligo Chip 30K」の販売が堅調に推移しました。また、チップ作製装置SPBIOや読取装置であるCHBIO、FMBIOの売上があった他、Luminexについても医学系大学や公立研究機関への納入が実現しました。

しかし、事業構造の転換に取組み、高収益事業への事業転換を図ったため、予想していた一般機器・システム販売等の高売上・低粗利の案件が大幅に減少しました。

その結果、当事業の売上高は、384百万円（前年同期比75.4%）となりました。

以上の結果、当第3四半期会計期間の売上高は、698百万円（前年同期比74.1%）となりました。また、利益面では、経常利益は35百万円（前年同期比64.0%）、第3四半期純利益は20百万円（前年同期比64.6%）となりました。

（2）キャッシュ・フローの概況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前年比232百万円減少して806百万円となりました。当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローでは、前第3四半期会計期間に29百万円の資金を得たのに対し、当第3四半期会計期間の営業活動により使用した資金は28百万円となりました。これは、税引前第3四半期純利益35百万円、減価償却費35百万円、売上債権の減少727百万円、たな卸資産の減少53百万円等がありましたが、仕入債務の減少883百万円、法人税等の支払額40百万円等があったことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、前第3四半期会計期間32百万円に対し、当第3四半期会計期間は204百万円と172百万円の増加となりました。これは定期預金の預入200百万円、固定資産の購入20百万円等により支出したものでありますが、固定資産の取得に係る国庫補助金等の入金18百万円もありました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローでは、前第3四半期会計期間及び当第3四半期会計期間の実績はありませんでした。

(3) 研究開発の状況

研究開発につきましては、平成 16 年 8 月に東京都老人総合研究所及び(株)LSS と細胞の老化に関する遺伝子診断技術開発を目的に「心臓特異的 Mn S O D 欠陥マウスの遺伝子プロファイリング」について、平成 16 年 10 月に東京大学大学院新領域創生科学研究科と診断チップに搭載するプローブの設計アルゴリズム開発を目的に「オリゴヌクレオチド・プローブの設計アルゴリズム構築」について共同研究を開始しました。

また、独立行政法人産業技術総合研究所と DNA チップの感度向上を目的にした「生体関連物質の微量検出を目的とした新技術開発」の共同研究契約を継続するとともに、将来の個人化医療に向けた臨床診断チップ開発のために、大阪府(代表者：大阪府立成人病センター)及び大阪大学大学院病態制御外科と「消化器系癌の診断法の研究開発」に関する共同開発、千葉大学大学院医学研究院と「呼吸器系癌の診断法の研究開発」を推進しております。

さらに、国立がんセンター研究所がん転移研究室と再生医療分野向けチップ開発のため「マウス ES 細胞の肝細胞分化・誘導に関する遺伝子プロファイリング」に関する研究等も進めております。

現在進めている、共同研究開発内容は次の通りです。

共同研究提携先	研究内容	開発する診断チップ/コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府(大阪府立成人病センターを代表とする 11 の公立病院) ・大阪大学大学院病態制御外科 	消化器系癌の診断法の研究 (大腸癌、胃癌、食道癌、肝癌)	消化器系癌診断チップ/コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学大学院医学研究院 	呼吸器系癌の診断法の研究 (肺癌、喉頭癌)	呼吸系癌診断チップ/コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ・大阪大学大学院生命機能研究科 	免疫関連の研究 (リウマチ)	免疫関連診断チップ/コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ・国立がんセンター研究所がん転移研究室 	マウス ES 細胞の肝細胞分化・誘導に関する遺伝子プロファイリングの研究	再生医療分野向けチップ
<ul style="list-style-type: none"> ・東京都老人総合研究所 ・(株)LSS 	心臓特異的な老化モデルマウスを用いた老化病態特有の遺伝子発現パターンの研究	細胞の老化に関する遺伝子診断チップ
<ul style="list-style-type: none"> ・産業技術総合研究所 	生体関連物質の微量検出を目的とした新技術開発	診断チップの感度向上
<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学大学院新領域創成科学研究科 	オリゴヌクレオチド・プローブの設計アルゴリズム構築	診断チップに搭載するプローブの設計

3. 当期の見通し（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

当期は前期に引き続き、より高品質で有用なDNAチップを提供するため、チップ関連技術の研究開発及び癌や生活習慣病等の臨床診断チップの開発に向け、大学・研究所等との共同研究開発を積極的に進めてまいります。これらの研究成果として、平成17年3月期におきましては、1枚のチップに3万遺伝子を搭載する汎用オリゴヌクレオチド・チップ及び毒性解析及び環境ホルモン検査向けにラットcDNAチップの販売を開始しており、積極的に拡販を推進してまいります。これにより、汎用チップの売上拡大を図るとともに、汎用チップを用いた受託解析サービスの売上増を図り、受託解析サービスを当社の主な収益基盤としていく計画です。

一方、ライフサイエンス機器につきましては、チップ作製装置 SPBIO 及び読取装置 CHBIO 等の納入が実現しており、さらに、大学、研究所等への Luminex の導入を推進してまいります。

しかしながら、低収益事業から高収益事業への事業転換を積極的に推進した結果として、低収益事業である一般機器・システムにつきましては、大幅な売上縮小となる見通しです。

これにより、平成17年3月期の業績を次の通りと見込んでおります。

なお、通期の業績見通しにつきましては、平成16年10月27日発表の「平成17年3月期 中間決算短信（非連結）」に記載のとおりとなっております。

平成17年3月期（平成16年4月1日～平成17年3月31日）の業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
通期	1,350 百万円	100 百万円	60 百万円
（ご参考）前期実績	1,807 百万円	103 百万円	63 百万円

（注）

本資料に記述されている業績に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、様々な要因により記載の予想、計画、見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

4. 四半期財務諸表等

(1) 四半期貸借対照表

科目	期別	前第3四半期会計期間末 (平成15年12月31日現在)		当第3四半期会計期間末 (平成16年12月31日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成16年3月31日現在)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(資産の部)							
流動資産							
1 現金及び預金		463,464		806,563		1,039,535	
2 受取手形	3	150,639		106,590		92,957	
3 売掛金		141,113		253,866		994,919	
4 たな卸資産		122,659		49,766		103,076	
5 繰延税金資産		7,528		7,098		8,703	
6 その他		45,219		37,289		92,105	
貸倒引当金		-		-		-	
流動資産合計		930,624	86.2	1,261,174	79.7	2,331,297	94.4
固定資産							
1 有形固定資産	1						
(1) 建物		318		272		305	
(2) 工具器具備品	4	141,564		114,628		131,501	
有形固定資産合計		141,882	13.1	114,901	7.3	131,806	5.3
2 無形固定資産							
(1) ソフトウェア		2,967		4,204		2,742	
(2) 施設利用権		582		582		582	
(3) その他		1,459		626		1,251	
無形固定資産合計		5,009	0.5	5,413	0.3	4,576	0.2
3 投資その他の資産							
(1) 長期性預金		-		200,000		-	
(2) 繰延税金資産		1,561		630		1,213	
(3) その他		864		929		864	
投資その他の資産合計		2,425	0.2	201,559	12.7	2,077	0.1
固定資産合計		149,317	13.8	321,874	20.3	138,460	5.6
資産合計		1,079,941	100.0	1,583,049	100.0	2,469,758	100.0

科目	期別	前第3四半期会計期間末 (平成15年12月31日現在)		当第3四半期会計期間末 (平成16年12月31日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成16年3月31日現在)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
(負債の部)							
流動負債							
1 買掛金		415,212		219,208		1,103,140	
2 未払金		2,494		16,437		1,000	
3 未払費用		14,593		14,350		33,862	
4 未払法人税等		3,535		1,300		20,324	
5 未払消費税等	2	3,279		2,592		4,983	
6 預り金		3,388		3,695		1,395	
流動負債合計		442,503	41.0	257,583	16.3	1,164,708	47.2
固定負債							
退職給付引当金		542		502		479	
固定負債合計		542	0.0	502	0.0	479	0.0
負債合計		443,046	41.0	258,086	16.3	1,165,187	47.2
(資本の部)							
資本金		370,000	34.3	616,500	38.9	616,500	25.0
資本剰余金							
資本準備金		139,750		529,050		529,050	
資本剰余金合計		139,750	12.9	529,050	33.4	529,050	21.4
利益剰余金							
第3四半期(当期)未処分利益		127,145		179,412		159,020	
利益剰余金合計		127,145	11.8	179,412	11.3	159,020	6.4
資本合計		636,895	59.0	1,324,962	83.7	1,304,570	52.8
負債及び資本合計		1,079,941	100.0	1,583,049	100.0	2,469,758	100.0

(2) 四半期損益計算書

科目	期別	前第3四半期会計期間 自平成15年4月1日 至平成15年12月31日		当第3四半期会計期間 自平成16年4月1日 至平成16年12月31日		前事業年度の 要約損益計算書 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	
		金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)	金額(千円)	百分比 (%)
売上高		943,647	100.0	698,869	100.0	1,807,784	100.0
売上原価		739,419	78.4	495,734	70.9	1,445,885	80.0
売上総利益		204,228	21.6	203,134	29.1	361,898	20.0
販売費及び一般管理費		140,774	14.9	167,764	24.0	231,573	12.8
営業利益		63,453	6.7	35,369	5.1	130,325	7.2
営業外収益	1	352	0.0	509	0.0	355	0.0
営業外費用	2	7,723	0.8	-	-	26,759	1.5
経常利益		56,082	5.9	35,879	5.1	103,920	5.7
税引前第3四半期(当期) 純利益		56,082	5.9	35,879	5.1	103,920	5.7
法人税、住民税及び事業税	4	24,497		15,487		40,000	
法人税等調整額	4	-	2.6	-	2.2	459	2.2
第3四半期(当期)純利益		31,585	3.3	20,391	2.9	63,460	3.5
前期繰越利益		95,559		159,020		95,559	
第3四半期(当期)未処分利益		127,145		179,412		159,020	

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前第3四半期会計期間 自平成15年4月1日 至平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自平成16年4月1日 至平成16年12月31日	前事業年度の要約キャ ッシュ・フロー計算書 自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
		金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税引前第3四半期(当期)純利益		56,082	35,879	103,920
減価償却費		50,478	35,695	68,786
退職給付引当金増減額(は減少)		46	23	109
貸倒引当金の減少額		350	-	350
受取利息		2	508	4
新株発行費		-	-	14,811
売上債権の増減額(は増加)		171,081	727,419	625,041
たな卸資産の減少額		11,706	53,310	31,288
仕入債務の増減額(は減少)		155,301	883,932	532,626
未払消費税等の減少額		9,089	2,391	7,385
未払費用の増減額(は減少)		1,070	19,511	11,759
その他		44,863	65,597	95,010
小計		78,624	11,581	35,290
利息の受取額		2	508	4
法人税等の支払額		49,598	40,310	49,598
営業活動によるキャッシュ・フロー		29,028	28,220	14,303
投資活動によるキャッシュ・フロー				
定期預金の預入による支出		-	200,000	-
有形固定資産の取得に係る国庫補助金等の入金		-	18,375	-
有形固定資産の取得による支出		32,982	20,809	41,007
無形固定資産の取得による支出		-	2,252	-
差入敷金保証金の支払による支出		253	318	253
差入敷金保証金の戻入による収入		544	253	544
投資活動によるキャッシュ・フロー		32,691	204,751	40,716
財務活動によるキャッシュ・フロー				
株式の発行による収入		-	-	627,427
財務活動によるキャッシュ・フロー		-	-	627,427
現金及び現金同等物の増減額(は減少)		3,663	232,972	572,407
現金及び現金同等物の期首残高		467,127	1,039,535	467,127
現金及び現金同等物の第3四半期末(期末)残高		463,464	806,563	1,039,535

四半期財務諸表作成の基本となる重要な事項

期 別 項 目	前第3四半期会計期間 自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
1. 資産の評価基準及び評価方法	<p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 四半期決算末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）</p> <p>(2) たな卸資産 商品 移動平均法に基づく低価法 貯蔵品 最終仕入原価法 仕掛品 個別法に基づく原価法</p>	<p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 同 左</p> <p>(2) たな卸資産 商品 同 左 貯蔵品 同 左 仕掛品 同 左</p>	<p>(1) 有価証券 その他有価証券 時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）</p> <p>(2) たな卸資産 商品 同 左 貯蔵品 同 左 仕掛品 同 左</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 建物...定額法 （建物附属設備は定率法） 工具器具備品...定率法 なお、主な耐用年数は以下のとおりです。 工具器具備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産...定額法 但し、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。 各四半期の減価償却費は年間発生見込額の1/4に相当する額を計上しております。</p>	<p>(1) 有形固定資産 同 左</p> <p>(2) 無形固定資産...定額法 同 左</p>	<p>(1) 有形固定資産 同 左</p> <p>(2) 無形固定資産 但し、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p>

期別 項目	前第3四半期会計期間 自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 営業債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当第3四半期会計期間末における自己都合退職金要支給額を退職給付債務として計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同 左</p> <p>(2) 退職給付引当金 同 左</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同 左</p> <p>(2) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における自己都合退職金要支給額を退職給付債務として計上しております。</p>
4. リース取引の処理方法	リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理方法によっております。	同 左	同 左
5. 四半期キャッシュ・フロー計算書（キャッシュ・フロー計算書）における資金の範囲	四半期キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、且つ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資を計上しております。	同 左	キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、且つ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期投資を計上しております。
6. その他四半期財務諸表（財務諸表）作成のための重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同 左	消費税等の会計処理 同 左

追加情報

前第3四半期会計期間 自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
_____	_____	(社会保険料の計上方法) 社会保険料の総報酬制導入にともない、当事業年度より未払賞与に対する社会保険料の負担額を未払費用として計上しております。この結果従来と同一の方法を採用した場合に比べ、営業利益及び経常利益はそれぞれ1,690千円減少し、税引前当期純利益は同額少なく計上されております。

注記事項

(四半期貸借対照表関係)

前第3四半期会計期間末 (平成15年12月31日現在)	当第3四半期会計期間末 (平成16年12月31日現在)	前事業年度末 (平成16年3月31日現在)
1 有形固定資産の減価償却累計額 153,577千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 205,733千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 171,453千円
2 消費税等の取扱い 仮払消費税等及び仮受消費税等 は相殺のうえ、未払消費税等とし て表示しております。	2 消費税等の取扱い 同 左	2
3 四半期末日の満期手形の会計処 理については、手形交換日をもっ て決済しております。 なお、当第3四半期の末日は金 融機関の休日であったため、次の 第3四半期末日の満期手形が、当 第3四半期末残高に含まれており ます。 受取手形 724千円	3 四半期末日の満期手形の会計処 理については、手形交換日をもっ て決済しております。 なお、当第3四半期の末日は金 融機関の休日であったため、次の 第3四半期末日の満期手形が、当 第3四半期末残高に含まれており ます。 受取手形 949千円	3
4	4 有形固定資産について、当第3 四半期会計期間に国庫補助金を 受け、日本公認会計士協会監査 第一委員会報告第43号「圧縮記 帳に関する監査上の取扱い」に より取得価額から控除した圧縮 記帳額は、次のとおりでありま す。 工具器具備品 18,375千円	4

(四半期損益計算書関係)

前第3四半期会計期間 自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
1 営業外収益の主要項目 受取利息 2千円	1 営業外収益の主要項目 受取利息 508千円	1 営業外収益の主要項目 受取利息 4千円
2 営業外費用の主要項目 為替差損 6,967千円	2 営業外費用の主要項目	2 営業外費用の主要項目 為替差損 7,348千円 商品評価損 3,600千円 新株発行費 14,811千円
3 減価償却実施額 有形固定資産 49,180千円 無形固定資産 1,297千円	3 減価償却実施額 有形固定資産 34,280千円 無形固定資産 1,415千円	3 減価償却実施額 有形固定資産 67,056千円 無形固定資産 1,730千円
4 当第3四半期会計期間における税金費用については、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示しております。	4 同 左	4

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期会計期間 自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
現金及び現金同等物の第3四半期末残高と第3四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 第3四半期末残高 463,464千円	現金及び現金同等物の第3四半期末残高と第3四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 第3四半期末残高 806,563千円	現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 期末残高 1,039,535千円
合 計 463,464	合 計 806,563	合 計 1,039,535

(リース取引関係)

前第3四半期会計期間 自 平成15年4月1日 至 平成15年12月31日	当第3四半期会計期間 自 平成16年4月1日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
該当事項はありません。	該当事項はありません。	該当事項はありません。

(有価証券関係)

前第3四半期会計期間末(平成15年12月31日現在)

当社は有価証券を全く所有しておりませんので、該当事項はありません。

当第3四半期会計期間末(平成16年12月31日現在)

当社は有価証券を全く所有しておりませんので、該当事項はありません。

前事業年度末(平成16年3月31日現在)

当社は有価証券を全く所有しておりませんので、該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前第3四半期会計期間末(平成15年12月31日現在)

当社はデリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

当第3四半期会計期間末(平成16年12月31日現在)

当社はデリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

前事業年度末(平成16年3月31日現在)

当社はデリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

前第3四半期会計期間(自平成15年4月1日 至平成15年12月31日)

当社は関連会社が存在しませんので、該当事項はありません。

当第3四半期会計期間(自平成16年4月1日 至平成16年12月31日)

当社は関連会社が存在しませんので、該当事項はありません。

前事業年度(自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)

当社は関連会社が存在しませんので、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

期 別 項 目	前第 3 四半期会計期間 自 平成15年 4 月 1 日 至 平成15年12月31日	当第 3 四半期会計期間 自 平成16年 4 月 1 日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年 4 月 1 日 至 平成16年 3 月31日
1株当たり純資産額	50,547.26円	97,423.70円	95,924.31円
1株当たり第3四半期(当期) 純利益	2,506.79円	1,499.39円	5,021.41円
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり第3四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p> <p>前事業年度において、平成15年5月7日開催の取締役会決議により、普通株式1株を2株とする株式分割をいたしました。当該株式分割が期首に行われたものとして、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算出しております。</p>			

(注) 1株当たり第3四半期(当期)純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	前第 3 四半期会計期間 自 平成15年 4 月 1 日 至 平成15年12月31日	当第 3 四半期会計期間 自 平成16年 4 月 1 日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年 4 月 1 日 至 平成16年 3 月31日
第3四半期(当期)純利益	31,585千円	20,391千円	63,460千円
普通株主に帰属しない金額 (うち、利益処分による役員 賞与金)	千円 (千円)	千円 (千円)	千円 (千円)
普通株式に係る第3四半期 (当期)純利益	31,585千円	20,391千円	63,460千円
普通株式の期中平均株式数	12,600株	13,600株	12,638株

(重要な後発事象)

前第 3 四半期会計期間 自 平成15年 4 月 1 日 至 平成15年12月31日	当第 3 四半期会計期間 自 平成16年 4 月 1 日 至 平成16年12月31日	前事業年度 自 平成15年 4 月 1 日 至 平成16年 3 月31日
該当事項はありません。	該当事項はありません。	該当事項はありません。